



仲間と共に

学校目標「めあてをもち 仲間と共に やりぬく心」 令和4年10月27日



青い目の人形
「パッテロー」



「青い目の人形」と戦争・平和

校長 小野木義浩

この青い目の人形は「パッテロー」という名前です。普段は加茂郡八百津町立和知小学校の校長室にあります。この夏には、岐阜市歴史博物館の企画展「学制発布 150 年記念 岐阜の学び舎 150 年」で展示されていました。

私が6年生を担当しているとき、戦争のあった時代を学習する際に、和知小学校へ取材に行って出会ってから、約25年ぶりの再会でとても感激しました。

日本とアメリカの関係が少しずつ悪くなってきた昭和2年（今から90年近く前）、日本の子供とアメリカの子供が仲良くなるのが大切だというアメリカのキューブリック牧師が呼びかけて、アメリカ全土の子供から集めた名前が付けられた青い目の人形たち約1300体が、日本の学校にプレゼントされました。岐阜県にも、小学校や幼稚園に約200体がやってきました。当時、日本にやってきたこれらの人形は珍しく学校の宝物として大切にされました。日本では、青い目の人形に対して、お礼をしようと子供たちから1銭の寄付を集めて、58体の高価な日本人形を「答礼人形」として、アメリカに送りました。アメリカでも、日本人形の美しさに驚きの声上がり各地で盛大な歓迎をうけたそうです。

さて、この青い目の人形ですが、立たせると「ママー」と声を出したり、青い目を開いたり閉じたりしたので、子供たちに大人気だったようです。届いたときには、わざわざ盛大なお祝いの会を開いた学校もありました。しかし、このように大切にされ、子供たちのアイドルであった人形ですが、昭和16年にアメリカとの戦争が始まると、多くの人形は「敵国のものはけしからん」といって、次々と叩き壊されたり、焼かれてしまったりという運命をたどりました。あれだけ、かわいがっていた青い目の人形を、戦意高揚のためか、子供たちが率先して人形を壊したり、焼いたりしたという新聞記事も残っています。運よく残った青い目の人形も空襲などでほとんどが行方不明となりました。

現在では、全国に220体余りの人形が確認され、岐阜県にはわずか2体のみ残っています。そのうちの1体がこの和知小学校に残るパッテローです。戦争当時、和知小学校に勤務していたある先生が、見つかったら重い罪になるかもしれないのに「戦争が始まったといっても、この人形には罪はない」といって密かに隠したために残っているというエピソードを聞きました。

最近では、ロシアとウクライナの戦争がますます激しくなり、近くでは、中国と台湾の関係も心配です。人の心・子供の心や行動を変えてしまう、変わらざるを得ない戦争は絶対にはいけません。

実は、この青い目の人形は三輪南小学校の前身「巖美（いずみ）尋常小学校」「春近（はるちか）尋常小学校」にも送られたという記録が残っています。とても興味深いです。地域の方で記憶のある方や何か情報があったら、ぜひ、学校までお知らせください。子供たちの学習に生かせそうです。

